

学界消息

読史会

昭和三十九年十二月例会

十二月十二日午後一時 於京大史学科第二教室

新中国を訪ねて 廣川 禎秀

昭和四〇年二月例会

二月十三日 午後一時 於 京大築友会館

二毛作の起源について 河音 能平

人文地理学会

第五七回例会

三十九年十二月五日

オランダにおける国土計画 塚田 秀雄

琵琶湖西岸の山麓地形 水山 高幸

第六〇回例会

四十年二月六日

那家域に関する一考察 於 奈良学芸大学

人文地理学と民族学 足利 健亮

新中園を訪ねて 林 宏 森 鹿三

中国四国歴史・地理学協会・西日本史学会

合同秋季学術大会

於・山口大学文理学部・山口県文書館

一〇月一七日

〈公開講演〉

平氏と西国 飯田 久雄
社会史の本領 高山 一十

一〇月一八日

〈国史部会〉

浄御原令の調税制 八木 充

「欽明十三年仏教渡来説と末法思想」補遺 田村 円澄

平安遺文「金石文」の内容について 松崎 英一

田原紹忍の軍事力 木村 忠夫

毛利藩における俵物の生産と集荷 小川 国治

近世西本願寺教権確立の一過程 児玉 識

薩藩門百姓の農業経営 松下 志朗

長崎貿易における唐人船宿 中村 質

幕末期芸州藩における商品経済の特質 畑中 誠治

朝鮮半島と日本書紀 重見 辰馬

〈東洋史部会〉

中国古代農業論における自然観 寺地 遼

朝廷差補の幕職官と随府の幕職官 片山 正毅

沿辺五路に於ける保甲編排について 羽生 健一

南宗財政における「截留」の意義 山内 正博

范氏義莊「租冊」の紹介 伊原 弘介

韓非子忠孝篇 板野 長八

ビルマの名に関する問題点 杉本直治郎

〈西洋史部会〉
フランスにおける武勲詩の「シークル」
(Chate)について 奥田 明子

ルネサンスと宗教改革 植村 雅彦

イギリス革命とジェントリ 梶谷 安義

ベルリン会議前後のフランス外交 西海 太郎

アメリカ保守主義の価値体系 武則 忠見

プログレンツヴィズム(革新主義)批判 福本 保信

「ドイツ工業全国連盟」の活動とその役割について 古川 栄輔

〈地方史部会〉

大内氏家臣団の文化交渉 田村 哲夫

大内時代の社寺建築 内田 伸

長州藩における嘉永二年の教育改革について 河村 太市

防長神道教化史の一構想 伊藤 忠芳

瀬戸内海地域における式内社研究の二、三の問題 河村乾二郎

鳥津義久の使僧について 野田 敏夫

近世の地方知行制 石川 卓美

〈地理学部会〉

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞 林 祥彦

湖盆と流路の変化 交通量よりみた徳山の人口吸引圏の変化 浅原 純一

山口県美禰地方における弥生式集落の立地

河本 芳久

山口県の小河谷平地における糸里型土地割の分布について

三浦 肇

西日本のカルスト地域におけるラビエの形態

浜田 清吉・三浦 肇

考古学民俗学部会

本州西端部の海崖段丘と無土器文化

小野 忠熙・河野 通弘

山口県月崎遺跡下層出土の縄文式土器について

潮見 浩

宝島・大池遺跡の調査概報

牛島 盛光

小児墓制に関する一考察

隈 昭志

南筑八女地方に於ける押型文と弥生期との関連

岩崎 光

山口県大島久保河内遺跡について

中野 孝之

山口県の古式土師器

小野 忠熙・中野 一人

山口市大内 乗福寺の塔址について

佐伯 敬紀

歴史教育部会

中学校、歴史教育における問題点について

金子 博昭

歴史事象と時代の流れについての認識を深める指導

森本 浩

歴史学習における興味・関心の探究

野村 久磨

高校歴史（日本史）教育の改善 近田 吉夫
歴史教育討論会
論題一指導における困難性とその対策」
〈地理教育部会〉

明治以後の小学校教科書にみる地理教育の発展
秋本 元之
松田 保馬

わが国農業の推移と社会教育
松田 保馬

小学校社会科における地理学習の系統
金子 廉

サンプリングメソッドによる工業学習
酒井 忠生

高等学校における地理学習の自然環境取扱の深度と問題点
福原 博

高等学校の地理学習において野外調査はどのように指導したらよいか
田中 堯

広島史学研究会 大会
一〇月二四日 於 広島大学文学部・教育学部
〈シンポジウム〉

東南アジア農村におけるインド農村の位置づけ
船越 謙策

インド農村における地域的多様性
米倉 二郎

外来文化の受容と固有社会―ケララ州の場合
伊東 隆夫

イギリス資本とハリヤナナ会社
武則 忠見

インドの土地改革
葛原 進

東パキスタンの現状、実地踏査
菱口 善美

総括
船越 謙策

〈公開講演会〉
ヨーロッパの東と西
竹内 正三

東南アジアにおける農村社会の実態と近代化
別枝 篤彦

〈日本史部会〉
神功皇后三十九年紀の大歳紀年
水野 惟之

養老令の改正点について
押部 桂周

奈良末期の巡察使
矢田 靖雄

室町期阿蘇神社領の構成
阿蘇品保夫

丹波国山国荘の社会構造
黒川 正宏

戦国期毛利氏知行利の貫高について
松岡 久人

安土城下町の性格
福尾猛市郎

参勤交代制について
熊田 重邦

鳥取藩の海運の発運と廻米輸送政策
山中 寿夫

大坂銀座について
武井 博明

尾藤二州の思想について
頼 祺一

山口県の地租改正について
小林 茂

〈東洋史部会〉
西周時代の里と漢代の里について
松崎 誠

宋・元の船戸について

劉宗周の一考察

明・清時代の水利組織と国家権力

張勳の復辟事件について

盤越国・漢越国および盤起国

明の国家権力と自治構造

歴史運動の新成果について

〈西洋史部会〉

ソロン改革の背景

デーンロー地帯再征服

D・ヒューム研究の基本的課題

パークとモンテスキュー

マイネッケの歴史主義前史の研究について

アメリカにおける産業社会主義思想

諸資料より見たる独立革命期のニューヨーク

植民地商人の動向について

J・デッキンソン「農業書簡の価値体系」

〈地理部会〉

大竹・岩岡地区の大工業とその関連中小工業の類型と問題点

広島市の交通構造

空中写真による低地域の地形計測の試み

松井 政明

藤沢 弘昌

森田 明

高城 博昭

杉本直治郎

高中 利恵

横山 英

向山 宏

鈴木 利章

山内 峰行

鶴田 正治

吉武 夏男

野村 達朗

仲田 光

武則 忠見

中山 修一

高辻 尚文

門村 浩

朝鮮のベディメント

糸里地域の溝渠構築の技術

南極地名語源ノート

中・四国地方における新地域計画の地理学的研究

〈考古・民俗部会〉

一九六四年度帝釈峽遺跡群の調査

松崎 寿和・杉原 荘介・戸沢 充則

潮見 浩・藤田 等

三原市天神山遺跡について

島根県古浦砂丘遺跡第四次調査概報

金関 丈夫・藤田 等

〈社会科学教育部会〉

親鸞の教学

社会科学教材としての「広嶋臨戦地日誌」について

社会科学における家庭学習と今日の家庭教育

人口の地理的記述についての若干の問題

中・高根生の歴史的思考力

内海 敏・上野 実義

永井 滋郎・藤井千之助

佐伯 岸男

日本思想史研究会 大会

昭和三十九年一月二四日 於 東北大学文学部

赤木 祥彦

水野 時二

岡島 米一

岡島 米一

宝子丸 明

高田 純

米田 茂徳

高田 純

宝子丸 明

宝子丸 明

宝子丸 明

高田 純

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

米田 茂徳

長明の隠遁とその精神構造

鎌倉時代武家政治の「道理観」

神皇正統記の歴史観

茶道の成立と歌学論

雪舟等揚の芸術と思想

戦国武士の「自由」について

本居宣長思想における日本の特性

樗牛の思想転向の背景

「恥」の日本の特性

日本上代の造庭思想

An Aspect of Shugendō Thought

マイロン・エアハルト

美的信仰の心理構造

室町武将の倫理思想

印章の思想史的考察

一〇月二五日

歌人緒方洪庵についての試論

二宮尊徳の根本思想

日本の近代化と忠孝の倫理

日本プロテスタント思想における「歴史」の問題

明治後期における「大学」の理念

和辻哲郎と国民道徳論

日本思想史上における大倉精神文化研究所

鎌田 純一

大塚 智

佐藤 和夫

玉懸 博之

神原 邦男

安念 正運

石毛 忠

石毛 忠

石毛 忠

石毛 忠

石毛 忠

石毛 忠

湯浅 泰雄

小沢 富夫

萩野三七彦

上田 稔

富西 一敬

石田 一良

大内 三郎

原田 隆吉

山田 洗

山田 洗

山田 洗

山田 洗

山田 洗

昭和三十九年一月二四、二五日

於 上智大学

中世宗教裁判の起源と発展に於ける世俗権力

と民衆の役割について

漆原 隆一

「ポリクテイクス」に於けるジョン・

オブ・ソールズベリーの国家観

榎本政権とパークス

カロリングガールの登位と王権の転換について

久保田恭平

「England」についての考察

イネ法典とその史的背景

Thomas Davis と青年アイルランド

ゲルマン諸族の部族名の研究

森有礼暗殺事件の背景について

一五一七年以前のカトリック教会内部にお

ける宗教改革について

欧州における秘密結社の発生に關する問題の

提起

最近のアジア史研究の側面

朝鮮役における日明和平交渉について

東南アジア史の構成

「公開講演」

「特別展観」

「東洋史部会」

「東洋史部会」

「東洋史部会」

東方学会 第十四回会員総会

昭和三十九年十一月四日

耶蘇会版の書誌について

華佗と幻人

「特別展観」 耶蘇会版展示

史学会 第六三回大会

昭和三十九年十一月七日

「公開講演」

ヨーロッパの文書館に於けるアジア関係文書

について

平城宮跡発掘調査報告

一月八日

「日本史部会」

天寿園繻帳銘の諸本

慶雲三年の輪租折衷法について

律令勲位制の性格と機能

正税帳欠損部分の二三の復原について

豊後国正税帳の復元

糸里制研究の一方法

伊勢神宮領における「戸労働」成立の意義

建治三年日記と、歎異抄への新見地導入につ

いて

十五世紀前期山城国伏見庄における地侍の

性格

寺院知行地の成立

真淵学における万葉主義の成立とその思想史

於 天理大学

富水 牧太

江上 波夫

於 東京大学

岩生 成一

榎本 杜人

飯田 瑞穂

虎尾 俊哉

野村 忠夫

亀田 隆之

井上 辰雄

倉田 康夫

鈴木 国弘

古田 武彦

性格

飯倉 晴武

奥野 中彦

葦沼 紀子

色川 大吉

量 博満

尾形 勇

西嶋 定生

布目 潮風

菊池 英夫

仁井田 陞

D・トイチエト

ベリオ敦煌収集の唐令の再吟味

藩領と唐末の財政

南宋財政の規模と經常支出

モンゴル部族制社会におけるオボフ(氏族)

制の論議をめぐって

ジャワ土侯領におけるオランダ製糖資本の

渗透

清代における抗租について

范瓊と「南風雜誌」

「西洋史部会」

サモスの僭主 Polykrates

ローマ元首政期の兵士の社会的地位を

めぐって

清永 昭次

山本 達郎

今堀 誠二

森 弘之

山本 達郎

今堀 誠二

森 弘之

山本 達郎

今堀 誠二

森 弘之

山本 達郎

今堀 誠二

森 弘之

、sac & soc、理念の成立 松垣 裕

十二・三世紀フランスにおける政治権力構造 下野 義朗

の転換 木村 豊

修道院領における自由世襲借地制と如意税

チャアダーエフの歴史哲学について 外川 熊男

アイルランド近代の土地問題(一) 古田 哲一

ワシントン・デュボイス論争とその背景 猿谷 要

革命的オプロイテと政教 篠塚 敏生

ロストウの『経済成長の諸段階』をめぐって 家名田克男

〈共通課題報告〉

「ドイツ保守派の危機意識」序論的考察 吉田 輝夫

「祖國党」の成立 富永 幸生

ゼークトの対ソ政策 鹿毛 達雄

「革命の時代」とシュトレーゼマン 三宅 立

ヒトラー政権掌握の背景 西川 正雄

司会 林 健太郎・村瀬 興雄

大塚史学会 大会

昭和三十九年二月一日 於 東京教育大学

シンポジウム『アジアと近代』

(議長・野沢 豊・大江志乃夫)

報告I 立憲改進黨における対アジア意識の構造 山田 昭次

報告II 洋務運動期の諸問題 中村 義

十一月五日

〈日本史部会〉

関東の古代寺院 鶴岡 静夫

大友氏の分国支配に関する一考察 西村 圭子

江戸幕府財政金融史の一考察 竹内 誠

化政期文化とその基盤 芳賀 登

草莽II「尊攘派」について 高木 俊輔

大久保政権成立の政治過程 田村 貞雄

大久保政権における経済政策 岩崎 宏之

〈西洋史部会〉

アマルナ王家の家族関係と共治問題について 屋形 禎亮

ヌジの土器について 丸田 正教・黒田 和彦

アレクサンドリア大学夏期講習より帰りにて 巻口 勇次

ビザンチン芸術におけるイコン 松本富士男

〈東洋史部会〉

唐代後半期の士豪と荘園 伊藤 正彦

万暦年間の「贖税の弊害」をめぐって 二谷 貞夫

謝靈雲と仏教 大川富士夫

南宋の私塩統制について 吉田 寅

変法運動と強学会 深沢 秀男

漢代の地方商業についての一試論 多田 獮介

管代の水利について 佐久間吉也

隋の泉寺について 山崎 宏

法政大学史学会 大会

昭和三十九年一月一日 於 法政大学

蘇我・石川両氏系図の成立について

嵯峨朝における地方行政 星野 良作

中山道における材木輸送と木間屋 上原 榮子

岡山藩の加損米制度について 丹治 健藏

晩年の杉田玄白 大貫 久雄

オランダ別段風説書とその採訪 片桐 一男

諸藩調所 安岡 昭男

審所調所の出版検閲 向井 晃

「大逆事件」と社会革命党 森 睦彦

立教大学史学会 大会 松尾 章一

昭和三十九年一月一日 於 立教大学

十七・八世紀におけるフランス毛織物工業の構造

不干斎ヘビアン論 若林 節子

古石燈籠の史的研究 小山 慈子

三重県大紫海貝塚の調査 高田 茂

岡本 勇・森川 昌和

平泉中尊寺草創年代考

中川 成夫

相模国高座郡渋谷庄について

杉山 博

明治中期国家主義下のキリスト教教育について

遠矢 徹志

南ベトナム農村の現況

菊地 一雅

ジェファソンのデモクラシーとジャクソンの

デモクラシー

富田 虎男

革新主義と帝国主義

有賀 貞

〈公開講演〉

ソビエト史学における階級闘争の問題

林 基

〈資料展示〉

史学科研究室新収資料・新収考古資料

仏教史学会 第十六回學術大会

昭和三九年一月二日

於 四天王寺学園女子短期大学

バガンの仏教

工藤 成樹

蘇悉地儀軌の系統について

真綱 俊照

大同縁起と御手印縁起

川岸 宏教

狭山池所と勤操

井上 薫

フランス東洋学の現状について

福井 文雅

〈講演〉

聖徳太子とその時代

田村 円澄

四天王寺建立の沿革

出口 常順

〈四天王寺史料展〉

解説 赤松 俊秀

日本史研究会 大会

昭和三九年一月二日

於 立命館大学

〈個別報告〉

古代末期の黨業生産について

檜崎 彰一

国衙領の貴族的領有と守護領国

田沼 陸

幕藩体制社会解体過程の諸問題

津田 秀夫

絶対主義の理論的再検討

下山 三郎

中央線の建設と地方の対応

原田 勝正

一月二日

大会テーマ 〈歴史の西期と階級関係〉

律令制成立期の身分と階級

上田 正昭

中世後期の階級構成

村田 修三

近世封建社会の成立をめぐる

高尾 一彦

日本帝国主義成立期の社会構造

掛谷 宰平

龍谷大学史学会 大会

昭和三九年十二月五日

於 龍谷大学図書館

法華験記成立考

明石 光磨

六朝仏教史の問題点

南部 松雄

深草弥生式遺跡の調査

網千 善教

「明神宗期豊臣秀吉日本国王誥命」について

大庭 脩

〈學術講演〉

園分寺創立をめぐる諸問題

井上 薫

〈史料展観〉

深草遺跡出土品展観

解説 網千 善教

訂正

四八巻一号所載 米田賢次郎「所謂『芥民要術巻頭雜説』について」に、次の誤植がありましたので、訂正いたします。

一三六頁上段一五行目

誤 (秋耕) ↓ 耙 ↓ 蓋磨(勞) ↓ 耕起・播種 ↓

蓋磨(勞) ↓ ↓ 鋤

正 (秋耕) ↓ 蓋磨(勞) ↓ 耕起・播種 ↓ 蓋磨

↓ 鋤

同頁下段一五行目

誤 (秋耕) ↓ 耙 ↓ 勞 ↓ 播種 ……

正 (秋耕) ↓ 耙(新開地) ↓ 勞 ↓ 播種 ……

一九六五年 二月二五日印刷 定価二四〇円
一九六五年 三月一日発行

史 林 (第四八巻第二号)

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

発行所 史 学 研 究 会

理事長 田 村 実 造
振替京都五 一五五番

印刷所 京都市下京区西七条御所ノ内中町五〇
中村印刷株式会社